

坂戸大改革 が進める 3つの大改革!

坂戸大改革レポート vol.04 [2024年2月号]

坂戸大改革

友田 ともだ まさあき

坂戸大改革委員 友田まさあきを紹介します

① ひとづくりを大改革!



いくつになっても安心して住み続けられるまちへ

- 相続支援専用窓口の設置
- シニア世代の健康促進施策の拡充

教育の質を高める

- 親の収入差による教育格差の解消
- デジタル教育の拡充

子育て支援の充実

- 所得制限なし18歳までの医療費無償化
- 給食費完全無償化の継続
- 0歳からの保活支援

② まちづくりを大改革!



政策実行のための財源確保

- ムダをなくす 大幅な経費削減による財源確保
- 誰ひとり取り残さないデジタル化の実行

坂戸の農業をまもる

- 農業従事者への支援強化
- 農地相続支援の確保

坂戸の活力を取り戻す

- 市内中小企業の支援拡充
- 坂戸市観光協会の設置
- 公有地への企業誘致の推進

まちの環境整備を徹底強化

- 坂戸インターチェンジ北側開発の推進
- 民間活力を活用した片柳地区開発事業の推進
- 防災力強化
- 道路整備の迅速化

③ こころづくりを大改革!



障がい者支援の拡充

- 公共施設のバリアフリー化
- 家族への支援強化

ボランティア団体・NPO活動の推進

- 地域包括ケアの強化
- 近隣大学との連携強化

高齢者福祉の充実

- 使いやすい介護保険制度
- タクシーチケットなど交通手段確保



ニュース&トピックス

毎朝始発から!

市内各駅で駅頭挨拶実施中!



友田まさあきが実際にいただいた坂戸市民の皆さまのお声をご紹介します。

「坂戸をもっとよくなるために頑張ってください!」

「そろそろ市長も世代交代してほしい」

「クリーンな政治を徹底してほしい」

友田まさあきを筆頭に、徹底的に市民目線の坂戸大改革を行います!

坂戸大改革

会員募集

ともに坂戸大改革を進めていく会員を募集しております。一緒に坂戸のチカラを取り戻しましょう!

お問い合わせ先: TEL. 080-4437-9548



編集・発行 坂戸大改革「坂戸市版」レポート

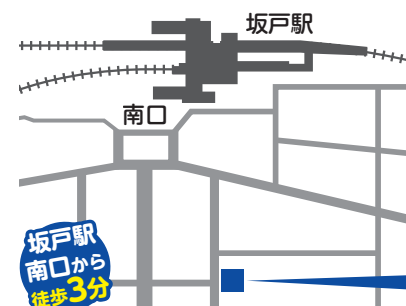
坂戸大改革 事務所: 〒350-0233 埼玉県坂戸市南町12-21

TEL. 049-298-7373 FAX. 049-298-3970

Mail: sakadodaikaikaku@gmail.com



最新の情報はこちら



お近くへお越しの際は
お気軽にお立ち寄り
ください

坂戸大改革
事務所
旧・田口耳鼻咽喉科

友田まさあきをインタビュー

改革への思い

Q 幼少の頃の思い出は？

友田：私は横沼で育ったので、よく八幡橋を目指し越辺川で、釣りや投網打ちをしていました。夏は早朝カブトムシやクワガタを獲ってましたね。正月になると当時流行った「ゲイラカイト」上げが楽しかったですね。よく通ったのが三芳野小学校の前の駄菓子屋でインベーダーゲームやパックマンなどペパシコーラ片手に楽しんでました。当時横沼には「やまびこ子ども会」があり、夏休みにはラジオ体操、大型バスで「サマーランド」や「船の科学館」に行ったり、子ども会の市内ソフトボール大会では準優勝したこともありました。昔は盆踊りや様々な地域イベントが沢山あり楽しい思い出ばかりでありました。また幼き頃から父親が、日本犬のブリーダーをやっていたため、朝夕の餌やりと（猫も飼っていた）犬の散歩など世話をする毎日でした。ペットは好きですが死を迎える毎に悲しい思いを繰り返してきたのでペットを飼うことは（責任を感じる）今はしていません。幼き頃から生きものの命の尊さを学んだからです。



Q 坂戸大改革委員 友田まさあきとはどんな人ですか？時系列にお聞かせください。

友田：【小学校時代】6年生の際三芳野少年野球団で、キャプテンを務めサードを守って居ました。他にも柔道、ピアノやそろばん、スケート、公文など習い事は多かったです。【中学校時代】1学年約300人位いた時代ですが、野球部に入部しポジションはショートを守って居ました。学級委員などを務めるなど、様々な活動をまとめてきました。【高校時代】柔道部に入部。また当時高校は文化祭が無く、文化祭を開催するためには生徒会を変えなければとのことから、柔道部の先輩の勧めで2年生で生徒会長に立候補。候補者3名の中から選ばれ生徒会長も務めました。【大学時代】学生が30名ほど入居する下宿屋へ。妹が二人いたため親には負担をかけたくないと考え、自ら仕送りは要らないとアルバイトに明け暮れる日々を過ごします。多種に渡るバイトはバーテンダー、居酒屋、ライブの舞台装置の設置、酒屋の配送、花屋等々、当時は苦労の連続でしたがその経験が今の会社経営やその後の人生に活かされております。青森は車がないと生活が困難なため、バイト代を貯め初めて買った車は中古の日産サニーバン（当時30万）。夏はねぶた祭り（最高に楽しかった！）冬は雪かきとスキーの毎日。

Q それでは、趣味は？

友田：グルメ巡り、スキューバダイビング、スキー、ゴルフ（お付き合い程度）、クラシックやジャズ、邦・洋楽など音楽と映画鑑賞、たまにカラオケ。ファッション巡り等々。青年会議所（JC）時代に茶道と出逢い今では裏千家淡交会埼玉県西武支部副支部長や、日本の伝統芸能「坂戸狂言会」の会長も務めておりますので、坂戸市の歴史や伝統文化・芸能の発信をしていきたいです。

Q 坂戸大改革を行うにあたりご自身の経歴や強みは何でしょうか？

友田：大学卒業後に花屋に就職。大手ホテル、都内のレストランウエディングのフラワー装飾や、総合プロデュースを手掛けてきました。そこで得た知識（マネジメント）を活かし1999年

29歳で坂戸市千代田に花屋を開業。起業家として経営者となり本年で26期目を迎えます。他にも会社を立ち上げたり他社の顧問を務めるなど、経営者として数字的な視点を常に意識し、戦略と改善を繰り返し売り上げと利益を伸ばしてきました。行政に必要なのは経営者としての視点。経営を行政に置き換えるならば、お客様は市民であり市民に喜ばれる「行政サービス」をしていくことが求められます。行政のトップは社長であり、経営戦略を打ち立て最高の「市民サービス」に繋げることが必要であります。行政のトップに必要なのは、経営的に数字を読み取る力と戦略。加えて組織を束ねるに必要な「リーダーシップ」力。まちづくりに欠かせない幅広い全国に於ける「人脈」を持っていることがなどが、私の強みだと考えております。

Q 本市の施設、イベントや産業、観光などの考え方は？

友田：「坂戸市民プール」の再開、「坂戸よさこい」全盛期の規模復帰、「坂戸市産業祭り」の規模拡大、「坂戸市観光協会」の再設置、「坂戸シティーマラソン」の規模復活、「ふるさと納税」の商品開発で税込アップ、「商工業・農業支援」の拡大、その他。これらは活気あつたあの時代の「坂戸市を取り戻す」ために全て必要な事項と捉えます。また、本市の偉人で製紙王である大川平三郎を語り続けていくために「大川平三郎記念館」を官民で新設したい思いがあります。やり方は色々な知恵を出せば必ずできること。全ては、やり方次第で実行可能と考えます。



Q 坂戸大改革としてどのようまちを目指しますか？

友田：市外から本市へ沢山の市民が転入したくなる「まち！」そんな魅力あるまちづくりができればと考えます。また市民の誰もが安心して快適で利便性の高い地域を創造して参ります！そして何よりも坂戸市民がワクワクして「夢」や「希望」を持てるそんな「まち」を目指します！

坂戸大改革委員 友田まさあき プロフィール



友田氏が理事を務める、一般社団法人日本サッカー名蹴会。会長 金田喜稔氏(右)、副会長 都並敏史氏(左)。

- 1970年4月12日生まれ（成年のB型）
- 坂戸市立 三芳野小学校 卒業
- 坂戸市立 住吉中学校 卒業
- 東京農業大学第三高等学校 卒業
- 青森大学 経営学部 経営学科 卒業
- 地元坂戸市で25年以上生花店を営む
- 2020年 坂戸市議会議員選挙にて1,157名の御信託を受け 初当選
- 高校生の長女と中学生の長男の二児の父親

地域のまちづくりに邁進

坂戸さつきロータリークラブ 会長

公益社団法人 日本青年会議所 人間力大賞運営委員会 委員長（平成22年度）

公益社団法人 西入間青年会議所 第27代 理事長（平成20年度）

入間航友会 坂戸支部 会員

所属団体経歴

教育・スポーツの振興に尽力

一般社団法人 日本サッカー名蹴会 理事

学校法人 東京農業大学 評議員

東京農業大学 第三高等学校同窓会 会長

NPO法人 てらこやネットワーク 評議員

伝統文化の発信に貢献

坂戸狂言会実行委員会 会長

青年会議所 全国茶道同好会連絡協議会 会員

茶道裏千家 淡交会 埼玉県西武支部 副支部長

経済の専門家として

坂戸市商工会 理事

埼玉西部経済同友会 会員

有限会社 雅（ブーケ・ド・ピアンカ）代表取締役

